

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅴ(がん緩和ケア論)	1	後期	2	講義 30時間
担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、田中優子			
授業概要	がん患者に生じやすい身体的苦痛の発生機序・病態を理解し、臨床判断に基づいた症状マネジメントについて探究する。また、緩和ケアを必要とするがん患者とその家族が抱える心理・社会的・霊的苦痛を理解し、それらを緩和するための包括的な看護介入について探究する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者に見られる苦痛症状の発生機序、治療法について説明できる。 2. がん患者の抱える苦痛症状を緩和するための援助方法について説明できる。 3. 緩和ケアにおけるコミュニケーションの問題の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 4. 複雑な心理・社会・霊的問題を抱えるがん患者の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 5. がん患者の代替療法・補完療法について説明できる。 6. 緩和ケアの臨床で利用可能なリソースの活用方法について説明できる。 7. がん患者のエンドオブライフケアおよび家族のグリーフケアについて説明できる。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	緩和ケアの概念と歴史的変遷	岡本	
	2	がんの症状マネジメント：がん性疼痛	千葉	
	3	がんの症状マネジメント：消化器症状	千葉	
	4	がんの症状マネジメント：呼吸器症状、呼吸困難等	千葉	
	5	がんの症状マネジメント：代謝・神経障害	黒田	
	6	がんの症状マネジメント：倦怠感	黒田	
	7	がんの症状マネジメント：皮膚障害	黒田	
	8	がんの症状マネジメント：症状緩和と鎮静	黒田	
	9	がんの代替療法・補完療法と看護	千葉	
	10	緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション	千葉	
	11	緩和ケアにおける心理社会的支援	田中	
	12	緩和ケアにおける心理社会的支援	田中	
	13	緩和ケアにおけるリソース活用方法	田中	
	14	緩和ケアにおけるリソース活用方法	田中	
15	がん患者のエンドオブライフケア・家族のグリーフケア	黒田		
教科書	なし			
参考書	適宜紹介する。			
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。			
事前・事後学習	<p>事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。</p> <p>事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。</p>			
備考	田中の講義は遠隔で実施する。			